

絶頂期を迎えた 大英帝国の繁栄

植民地帝国になった、
絶頂期のイギリス

イギリスは、1837～1901年の60年余にわたって王位にあったヴィクトリア女王の時代に、絶頂期を迎えた。国内では、自由党と保守党が交互に政権を担当する議会制民主主義が定着した。この二大政党は労働者の支持を得て優位に立ち、それが政策にも反映された。19世紀後半の選挙法改正で、都市労働者や農業労働者も選挙権を獲得し、教育法の制定、労働組合の合法化など、労働者を体制に取り込む政策がとられた。

「世界の工場」(P.98参照)として圧倒的な工業力・経済力をもつイギリスであったが、1870年代に入ると、アメリカやドイツの追い上げにより経済が低迷した。そこで、対外投資による利益拡大へと政策を転換し、植民地の拡大を図る帝国主義政策を推し進めていった。保守党のディズレーリ首相は、75年にエジプトからスエズ運河の株式を買収し、ヨーロッパとアジアを結ぶ交通の要衝を押さえた。また、77年にはインドを、イギリス国王が皇帝を兼ねるインド帝国とし、実質的に植民地化した。さらに、エジプトの支配、南アフリカの植民地化を進める一方カナダ、オーストラリアなど、本国からの移民がおさめる植民地を自治領化した。



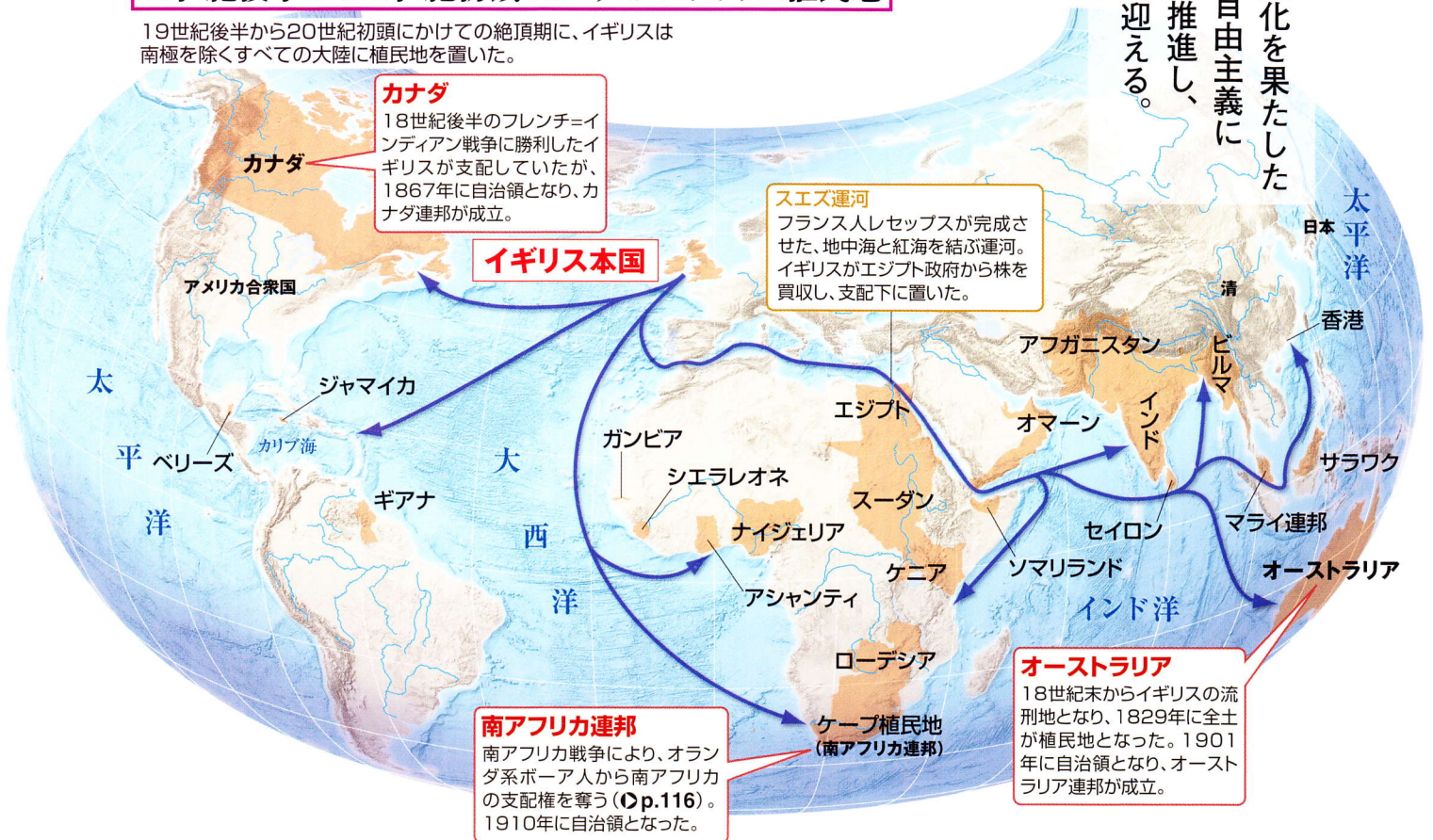
いち早く工業化を果たしたイギリスは、自由主義に基づく政策を推進し、空前の繁栄を迎える。

19世紀イギリスの海外進出

- 1815年 ケープ植民地領有 [南アフリカ]
- 1840～42年 セイロン領有 [南アジア]
 - ウィーン議定書による獲得
- 1840～42年 香港領有 [東アジア]
 - アヘン戦争による割譲
- 1857～59年 インドの直接統治 [南アジア]
 - 「セポイの反乱」鎮圧後、インド帝国を樹立
- 1878～80年 アフガニスタン保護国化 [西アジア]
 - 第2次アフガニスタン戦争に勝利。ロシア南進を防ぐ
- 1882年 エジプト保護国化 [北アフリカ]
 - 1875年スエズ運河取得
- 1886年 ビルマ領有 [南アジア]
 - インド帝国に併合
- 1895年 マライ連邦領有 [東南アジア]
 - マラッカ海峡、シンガポールなど航路拠点を確保
- 1899年 スーダン領有 [北アフリカ]

19世紀後半から20世紀初頭にかけてのイギリス植民地

19世紀後半から20世紀初頭にかけての絶頂期に、イギリスは南極を除くすべての大陸に植民地を置いた。



Key Word

アイルランド問題

イギリスのアイルランド支配によって生じた、未解決の宗教・民族問題。ピューリタン革命時にクロムウェル軍がアイルランドで土地没収や虐殺を行う。19世紀前半にはオーコンネルらがアイルランド解放運動を展開したが、1840年代後半にジャガイモ飢饉が発生し、大量の餓死者と海外移民を出した。1922年に北アイルランドを除き自治を獲得。